

「授業構想力評価スタンダード（国語科）」

観点 \ 段階	段階 1	段階 2	段階 3
A．授業構想力			
1．学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	クラス全体として学習に取り組む姿勢を把握している。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習者の理解力・表現力を把握している。 学習集団の特質を直感的に把握している。 個と集団が相互に及ぼし合う関係を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習者の実態を，学習者の言語生活力の発達段階の中に位置づけることができる。 個と集団が相互に及ぼし合う関係をふまえ，個の発達をうながす集団づくりを方向付ける急所がわかる。
2) 学習への構え・ルールづくり	学習者が既に習得している学習規律やルールを理解し，それに基づいて授業を展開することができる。	学習を効果的に展開するために必要な学習規律やルールを，学習者が納得できるように設定し，クラスに定着させている。	クラスや個の特性に配慮した学習規律やルールを設定するとともに，学習者が主体的に学習規律を守り，修正していくことができるように，学習集団を運営している。
2．目標の分類と設定	学習指導要領を熟知し，授業の目標を，関心・意欲・態度，思考・判断，技能・表現，知識・理解の各観点からとらえて設定している。	授業の目標を，言語生活力の発達という観点からとらえ，設定している。	授業の目標を年間学習計画の中で位置づけ，自身の実践に照らして吟味し，適切に更新している。
3．授業構成			
1) 教育内容の構成	学習指導要領を熟知し，学習対象となっている言語生活の事象を，活動・意義・作品・規則の観点から整理し，教育内容としている。	言語生活の事象を，活動・意義・作品・規則の観点から有機的に関連させて吟味し，重点化して教育内容を構成している。	学び方の基礎として言語生活を総合的にとらえ，学習者の人間形成と関連づけて教育内容を構成している。
2) 教材（題材）の選択・構成	<ul style="list-style-type: none"> 言語教材を，活動・意義・作品・規則の観点から分析し，適切な教育内容を設定している。 教育内容に即した適切な言語教材を準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語教材を，活動・意義・作品・規則の観点からの確に分析し，学習者の反応やつまづきを適切に予想している。 学習者の多様な活動に対応できるように言語教材を構成し，準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語教材を，活動・意義・作品・規則の観点からの確に分析し，学習者の多様な反応やつまづきを予想している。 学習者の多様な見方や考え方をうながし，多面的な学習活動へ展開できる言語教材を開発している。
3) 授業過程の組織	<ul style="list-style-type: none"> 授業の核心を明らかにして，導入・展開・終結の流れがある授業過程を組織している。 学習を援助する発問や手引きを作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の認識の深化・拡充を生み出すように授業過程を組織している。 授業全体を貫く主発問と補助発問を区別し，それらを体系的に組織している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者自身が新たな問題を発見し，解決していく契機となるように授業過程を組織している。 主体的な探求活動を促すように問いの表現や構成を工夫している。

観点 / 段階	段階 1	段階 2	段階 3
4) 学習法・学習形態の選択・組織	学習者の学習意欲を喚起し、発言や活動を促す学習法・学習形態を選択し、組織している。	多様に存在する学習法の特徴をふまえて、目標、教育内容との関わり合いという観点から効果的な学習法・学習形態を選択し組織している。	学習者自らが発見した問題を解決していく過程に適する学習法や学習形態を、学習者が選択し組織していきけるよう支援している。
4. 単元計画 (授業計画)			
1) 単元 (授業) 計画の作成	単元の主題を設定し、適切に時間数を割り振っている。	目標や単元の主題に即して、単元計画を構想している。	複数の単元計画から、学習者の実態に合わせて最適な計画を選んでいる。
2) 学習指導案の作成	学習指導案の一般的な形式項目を理解し、その概略を記述している。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元主題、学習者の言語生活の実態、教材、学習活動を適切に記述している。 ・目標と密接な関わりのある学習活動を具体的に記述している。 	言語生活力の育成に向けて、言語生活の種類や言語活動の種類に合わせて、学習指導案の形式を選択し、適切に記述している。
3) 学習評価計画の作成	関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解の各観点ごとに、評価活動を計画している。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動・意義・作品・規則の各観点を有機的に関連させた、単元独自の評価項目を設定している。 ・言語活動に即して、診断・形成・総括評価の項目を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方の基礎として言語生活を総合的にとらえ、学習者の人間形成と関連づけて評価活動を設定している。 ・授業評価を視野に入れて、診断・形成・総括評価、学習者の自己評価等を有機的に組み合わせ、評価項目を設定している。